

令和4年度 第4回 都市計画サロン 報告

日時：令和5年3月22日（水）

参加者：15名

演題：「地下鉄七隈線延伸について（天神南～博多）・七隈線沿線まちづくりについて」

講師：受島啓介氏（福岡市交通局建設部計画課計画係長）

伊藤雅典氏（福岡市住宅都市局地域まちづくり推進部地域計画課主査（七隈線沿線まちづくり担当））

講演内容：

（受島 啓介氏）

モータリゼーションによって路面電車の速度が低下し、公共交通の輸送人員が低下しており、そのような中で高速鉄道の検討が始まった。昭和46年には具体的な路線の答申がなされ、市議会・協議会等で計画を具体化する審議がなされ、これらを基に空港線と箱崎線の整備の方針が決定した。しかしながら西南部については課題が残る状況であった。西南部の急速な都市化が進む中、慢性的な交通渋滞の緩和が課題となり、改めて効率的で利便性の高い公共交通体系の確立を目指し、七隈線の建設計画が始まっている。ルート選定においては、経由すべき都心部及び西南部の拠点や需要等が考慮され、そのうち橋本駅から天神南駅が先行整備され、都心部区間が未整備区間で残った。

都心部のルートについて検討を行ったところ、いくつかの課題が明らかになり、課題を検討した結果天神南から博多駅と既存の検討ルートの3つから検討を行い、天神南～博多のルートに決定している。

整備については手続きに約3年、工事に約9年を要し、令和4年度の開業に至っている。中間駅については開削工法を採用し、その他の区間についてはシールド工法、NATM工法、アンダーピニング工法を採用している。また、今回の延伸区間の新駅については、歓楽街や商業施設に隣接していることから、回遊性の向上につながると考えている。博多駅では新たな出入口は設けず、既設の出入口を活用し、空港線との連絡を重視している。

地中熱の活用や下水熱の活用を図ることで、さらに環境に配慮した駅を実現している。

（伊藤 雅典氏）

沿線まちづくりのイメージでは4つの目標を定め、住民と行政が共働して実現に取り組んでいる。天神南地区では地下街の整備を行い（延伸）、乗り換えの結節機能強化を図っている。そのほか、市街地再開発や土地区画整理などを活用し、沿線の開発と利便性の向上を図っている。茶山では特徴的な事例として、駅出入口、地下鉄変電所、駐輪場と住宅供給公社の賃貸住宅を組み合わせた複合施設がある。

沿線全体で開業後約2万人の人口が増加、住宅地の地価も大きく上昇している（最大約64%）など、まちづくりに一定の成果が見えてきている。また、現在は橋本駅周辺地区でまちづくりを進めており、開業2年後には駅を含む北側地域を市街化区域に編入し、地域住民による組合土地区画整理事業をスタートしている。町の核となる商業施設についても誘致している。駅の南側についても令和2年に市街化区域に編入し、組合土地区画整理事業をスタートし、地域の方と行政が共働して計画的なまちづくりを進めている。またさらに南側の地域についても土地区画整理事業の準備組合を設立し、まちづくりの実現に向けた検討を実施している。

延伸区間のまちづくりについては、あらたにガイドラインを策定し、都心部の活力と魅力の向上を目指し、櫛田神社前駅を活かしたまちづくりや回遊性を高めるまちづくりを中心に取り組んでいる。春吉橋の架け替えでは工事中の迂回路橋をかけ替え後も残し、都心部における水辺の憩いと回遊の拠点とする計画や、はかた駅前通りの官民連携による再整備で歩道幅員を拡幅するなど、様々な事業を実施している。

意見交換：

七隈線開業後の分担率の変化や、今後の延伸の方向性など、活発な議論がなされた。

（文責：福岡大学 田部井優也）

